

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2385 号

A Validity and Reliability Study of the Japanese Version of the Geriatric Depression Scale 15 (GDS-15-J)

(高齢者用うつ尺度短縮版 - 日本版の妥当性と信頼性)

杉下 和行 (すぎした かずゆき)

博士 (医学)

論文内容の要旨

高齢者用うつ尺度短縮版 (GDS-15) は、高齢者のうつ病のスクリーニング尺度として最も広く使用されているものの一つである。過去に GDS-15 については複数の日本語版が作成されたがいずれも翻訳が適切でなく、内容も日本の文化に適合していなかった。しかし、2008 年に共著者 2 名が適切かつ日本の文化に合うように GDS-15 の新しい日本版である高齢者用うつ尺度短縮版 - 日本版 (GDS-15-J) を翻訳した。過去の日本語版でみられた翻訳の誤りも GDS-15-J では修正された。本研究の目的は、GDS-15-J の妥当性と信頼性を精神疾患の診断・統計マニュアル第 4 版テキスト改訂版 (DSM-IV-TR) のうつ病の診断基準と比較して検証することである。この研究の参加者は、128 名の外来患者 (年齢: 55-92 歳) で、DSM-IV-TR のうつ病の診断基準に基づいて、76 名の非うつ病群と 52 名のうつ病群の 2 群に分けられた。ロジスティック回帰分析では、年齢、性別によらず、GDS-15-J スコアがうつ病のスクリーニングに使用できることが示された ($p < 0.001$)。ROC 曲線の解析結果によると、DSM-IV-TR に対する GDS-15-J の妥当性は優れたものであった。カットオフスコアを 6/7 点とした場合には感度が 98%、特異度が 86% であった。うつ病のスクリーニングテストとして最適なカットオフスコアは 6/7 点であった。GDS-15-J の構成概念妥当性を評価するために因子分析を施行したところ、3 つの因子が抽出された。GDS-15-J に対するクロンバックのアルファ係数は 0.83 で、高い内的整合性が示された。本研究では、GDS-15-J は 6/7 点をカットオフ値としたときに優れた精神測定学的特性を示していた。解析結果によると、15 項目の質問からいくつかを省くことでより感度と特異度が高い短縮版ができる可能性が示唆された。GDS-15-J はうつ病に対して臨床的に利用可能なスクリーニングツールといえる。